



代表取締役
渡辺 宏

【事業計画名】

高効率圧縮梱包機の導入による 生産能力向上と国内・海外市場の拡大

背景・目的

古紙回収量が年々増加 処理能力に課題

当社は、段ボール、新聞、雑誌、構造紙などの古紙を回収後、圧縮・結束・梱包し、製紙原料として製紙会社や商社へ出荷しています。

八戸市では、事業系一般廃棄物のうち「資源となる紙」11品目については古紙取扱業者への搬入を促す通達が発出されています。また、大手スー

パーマーケットでは集客効果が見込める古紙リサイクルポイント事業を平成24年から実施しており、店舗等で収集された古紙も当社に持ち込まれるようになったことから、古紙の回収量は年々増加していました。

こうした背景のもと、当社では東北地方で唯一の大型圧縮梱包機3基を

有していましたが、年々増加する古紙の大量搬入に伴い、処理能力拡大が課題となっていました。



実施内容

大型圧縮梱包機の導入で作業効率UP

今後の更なる古紙の取扱量の増加に対応するため、古紙を圧縮梱包する最新型のオートマチック大型圧縮梱包機を導入し、生産性、品質の向上によるコスト削減および作業効率の改善を図りました。機器の導入にあたっては、2012年式オートマチックペー

ラー1基を導入しました。ほかにある2基と合わせて3基、古紙の種類ごとに使い分けることにより、さらに効率アップを図っています。



事業成果

「早くて重い」ことが、コストや人員削減・時間短縮につながる

今回の機器の導入により、1時間あたりの処理能力が約6,000kgから約12,000kgへと増加し、従来の機器の約2倍もの処理体制を構築することができました。

また、従来の機器よりも圧縮の馬力が強く、より強力で圧縮されるため、製品1本あたりの重量は従来の約800～900kgから約1,150kgに増加して、生産性の向上が図られました。

製品重量の増加に伴い、梱包用番線（針金）の使用量も減少したので、コストの削減にもつながります。

これまでは結束工程を手動で行っていたため、機器に人員を配置する必要がありましたが、今回の機器の導入により結束工程が自動化されたことで、人員をほかの工程に従事させることができ、仕損じの発生も減少したため、作業効率が大幅に改善されました。



ココがポイント

作業の効率化が地域のごみ減量に直結！

生産性と作業効率の向上によって、国や市が掲げている「雑がみ類・その他の紙」など、**時間と手間がかかるためにそれまで受け入れができなかった品目も受け入れ、処理できるようになりました。**この受け入れが地域のごみの減量化にもつながっています。



今後の展望

まだまだリサイクルできるものがある！幅を広げてリサイクル推進

当社では、平成25年度の本事業を皮切りに約5年間で総額約4億円の設備投資をして、地域のリサイクル率向上に努めてきました。

今後は、デジタルデバイスの普及によって、新聞や雑誌などの紙媒体が減っていくことが考えられます。しかし現在も青森県は全国の中でごみ全体の量は多く、可燃ごみを燃やすときに排出されるCO₂の排気量が多いのが現状です。

これまで以上にリサイクルが求められていくなかで、設備投資をすることで作業の効率化が実現できてきたので、今まで手間がかかってやりきれなかったプラスチックごみや「雑がみ類（段ボール、新聞、雑誌、模造紙以外の資源化が可能な紙類等）」のリサイクルについては、今後行政に提案できることがあると考えています。例えば紙コップなど、紙に加工がされているようなものは「雑がみ類」に含まれます。こう

いうものは、ほかの古紙よりも溶けにくいので、ほかの古紙と混ぜてリサイクルすることはできませんが、紙コップだけをたくさん回収することで、リサイクルすることができるようになります。

リサイクルは、正しく分別してもらって初めてリサイクルできる状態になります。社会全体でリサイクルを推進することに、今後も貢献したいと考えています。

北日本産業株式会社

代表取締役 渡辺 宏 ◎創業 昭和33年 ◎資本金 1,100万円 ◎従業員 26名

〒031-0071 八戸市沼館1丁目7番35号
TEL.0178-22-4655 FAX.0178-24-2294
E-mail:north-jap@cerely.ocn.ne.jp

